

令和4年7月28日
港区

港区

「地域包括ケアの推進に関する事業」

令和3年度報告

港区保健福祉支援部保健福祉課

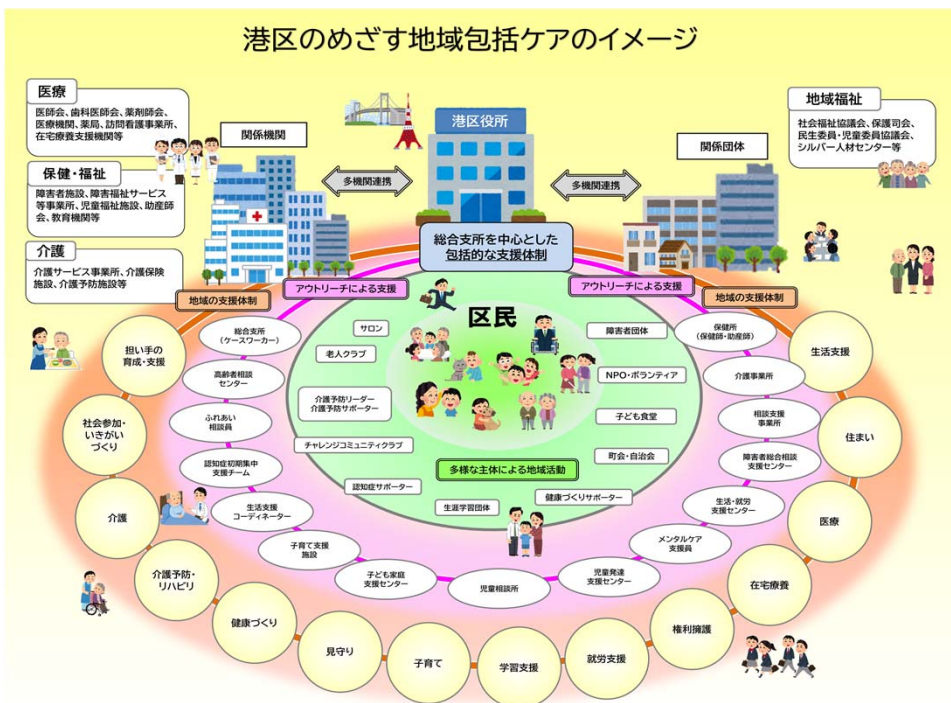
報告書の掲載内容

- 1 港区の地域包括ケアの推進について
- 2 地域包括ケアを推進する会議報告
- 3 港区在宅療養相談窓口の運用
- 4 在宅療養後方支援病床の運用実績
- 5 様々な機関との連携
- 6 生活支援体制整備事業
- 7 認知症施策
- 8 介護予防事業
- 9 資料

1 港区の地域包括ケアの推進について

(1) 区をめざす地域包括ケアのネットワーク

区は、**全ての区民**が地域社会を構成する一員として、**住み慣れた地域**で安心して暮らし続け、**多様な社会参加**ができるよう**地域全体が相互に協力し、支え合う地域包括ケア**を推進してまいります。



区がめざす地域包括ケアの将来像

港区全体が相互に協力し支え合い、全ての区民が地域社会を構成する一員として、住み慣れた地域で安心して暮らし続け、多様な社会参加ができるまちの実現をめざします。

基本的な考え方

港区は医療をはじめ福祉、保健、介護などの多種多様な専門機関・団体・事業所等が多数存在し、区民や地域に向け、様々な活動を行っています。区では、港区ならではの地域包括ケアを推進し、多種多様な専門機関や団体等との連携強化を図り、包括的支援体制の構築を進めていきます。

港区の包括的支援体制

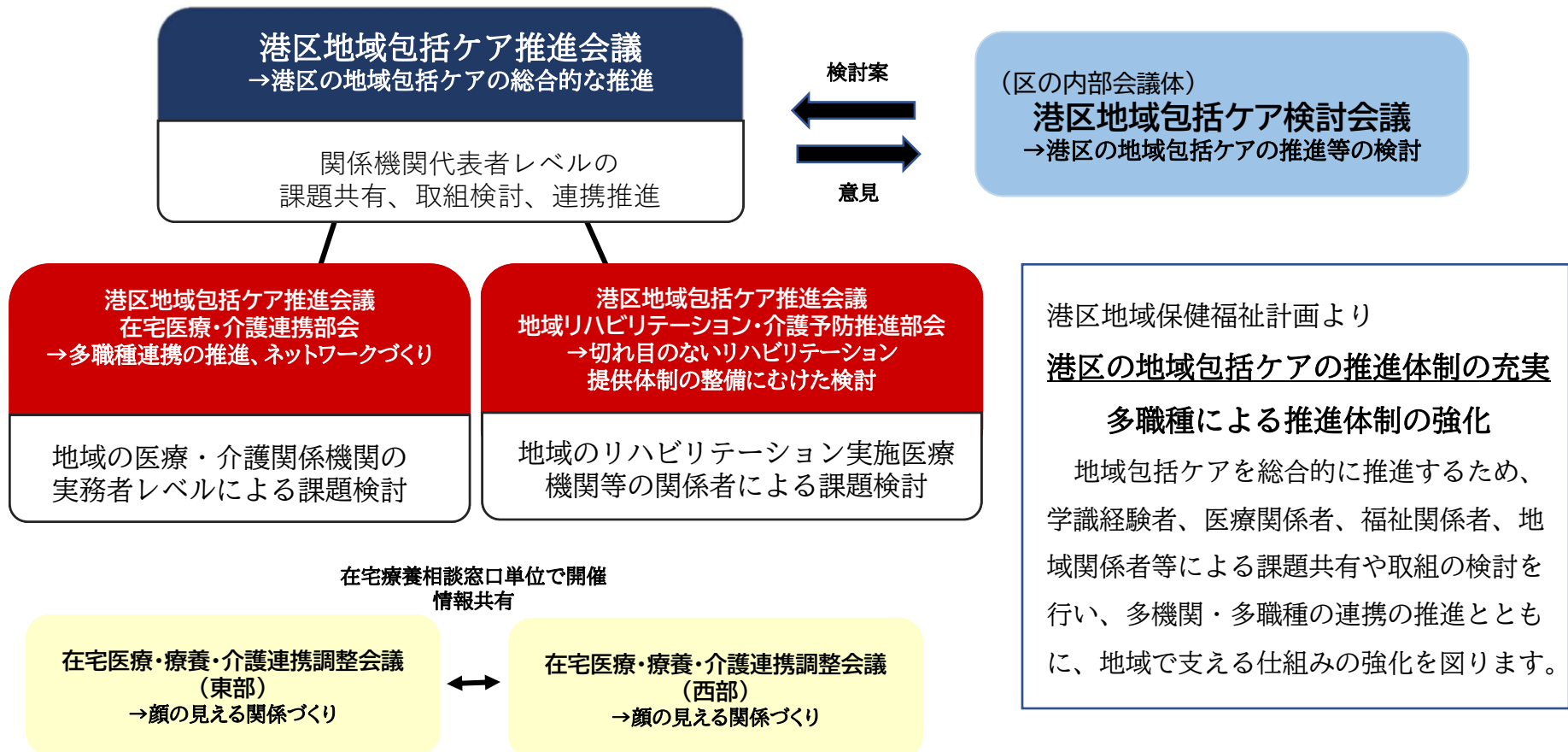
令和4年8月に福祉総合窓口を各総合支所に設置します。高齢者、障害者、子ども、生活困窮などの分野を特定せず、福祉に関するあらゆる相談にワンストップで対応していくとともに、専門機関や団体等とのネットワークを活用し、区民の生活課題に対し包括的に支援します。

多様な主体による地域活動	区民を取り巻く多様な地域の活動団体等による支援や働きかけ、近所づきあいから生まれる声掛けや見守り、住民同士の助け合いなど、地域のことをよく知る住民が主体となり住み慣れた地域での生活を支え、区はその活動を支援していきます。
アウトリーチによる支援	本人の状態に応じた介護保険や医療保険、福祉サービス等の利用や総合支所、保健所などの区の施設、各種専門機関からのアウトリーチ等による支援を受けながら、地域で継続して生活していくことができるよう関係機関と連携した支援をしていきます。
地域の支援体制	総合支所を中心とした関係機関・団体との多機関連携を通じ、区民や区民を支える地域の活動団体、各種サービスを提供する事業所等の専門機関等と連携強化を図ることによって、区民が自身の状況にあった支援や様々な施設、サービスを選択し、住み慣れた地域で暮らし続けられることをめざします。

(2) 港区の地域包括ケアの推進体制

港区ならではの地域包括ケアの推進に関する事項を協議するため、区では港区地域包括ケア推進会議設置要綱に基づき、各種会議を開催しています。

令和3年度の港区の地域包括ケアを推進する体制



2 地域包括ケアを推進する会議報告

(1) 港区地域包括ケア推進会議

港区の地域包括ケアの推進に向けた取組及び調整のほか、各分野相互の情報共有等を協議しています。

回数	開催日	議 題
第1回	令和3年7月7日 (リモート・参集併用)	1 港区の地域包括ケアシステムの進捗状況等について 2 港区の地域包括ケアを推進する社会に向けて 3 福祉総合窓口の設置について
第2回	令和4年2月4日 (書面会議)	1 港区の地域包括ケアの推進の進捗状況等について 2 令和4年度 港区の地域包括ケアの推進について 3 福祉総合窓口の検討状況について 4 その他

(2) 在宅医療・介護連携推進部会

港区の在宅医療及び介護に関する連携の推進のため、各団体等の情報共有やガイドブックの作成等を検討しています。

回数	開催日	議 題
第1回	令和3年9月10日 (リモート会議)	1 港区の地域包括ケアの推進について 2 港区在宅療養相談窓口の状況について 3 (仮称)港区多職種連携ガイドブックの作成について
第2回	令和4年2月18日 (リモート会議)	1 港区在宅療養相談窓口の状況について 2 福祉総合窓口の検討状況について 3 (仮称)港区多職種連携ガイドブックの作成について

(3) 地域リハビリテーション・介護予防推進部会

地域リハビリテーション及び介護予防に関する取組の情報共有や関係団体等との連携の推進について検討しています。

回数	開催日	議 題
第1回	令和3年11月16日 (オンライン会議)	1 区からの報告・情報提供 2 介護予防総合センター ラクっちゃんの事業紹介 3 区中央部地域リハビリテーション支援センターの活動について 4 情報共有(各委員から) 5 その他

(4) 港区在宅医療・療養・介護連携調整会議（東部・西部）

東部及び西部の在宅療養相談窓口と連携する関係団体等と地域課題への対応や各団体活動の情報共有を進め、顔の見える関係づくりを進めています。

西 部	第1回 令和3年11月12日 (リモート・参集併用)	◆議題 1 西部在宅療養相談窓口の運営状況について 2 港区の地域包括ケアの推進について 3 各機関からの情報提供等 4 その他
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・議題1では、西部在宅療養相談窓口の令和3年4月～9月までの実績を報告し、事例について情報共有した。 ・議題2では、令和4年度以降の在宅療養相談窓口の統合や福祉総合窓口の設置について報告した。 ・議題3では、港区社会福祉協議会の担当者から、コミュニティーソーシャルワーカーの説明があり、事例について情報共有した。また、保健所の担当者から、精神保健福祉事業について報告があった。委員から、コロナ禍で精神的に不安定な方からの相談を受けることがあるので、関係機関と情報共有しながら対応していきたいとの意見があった。
	まとめ	コミュニティーソーシャルワーカーの活動の啓発と連携が重要となり、なかなか支援機関等につながりづらかった事例から、日常的な情報共有が大切となることなどを確認することができた。また、コロナ禍であっても、各種相談は増加している内容もあるため、各団体や関係機関との連携強化が求められることを確認した。
東 部	第1回 令和3年11月19日	◆議題 1 東部在宅療養相談窓口の運営状況について 2 港区の地域包括ケアの推進について 3 各機関からの情報提供等 4 その他
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・議題1では、東部在宅療養相談窓口の令和3年4月～9月までの実績を報告し、事例について情報共有した。 ・議題2では、令和4年度以降の在宅療養相談窓口の統合や福祉総合窓口の設置について報告した。 ・議題3では、港区社会福祉協議会の担当者から、コミュニティーソーシャルワーカーの説明があり、事例について情報共有した。委員からは、コミュニティーソーシャルワーカーの活動に本人の年齢制限はあるか等の質問があった。また、保健所の担当者から、精神保健福祉事業について報告があった。委員からは、病院にも漠然とした不安などの電話が夜に来るので、メール等夜間土日の対応ができると良いとの意見があった。
	まとめ	コミュニティーソーシャルワーカーの活動の啓発と連携が重要となり、なかなか支援機関等につながりづらかった事例から、日常的な情報共有が大切となることなどを確認することができた。制度のはざまにあるケースなどは、これまで以上に連携を強化していくことやチームで支援する体制づくりが必要であることを確認した。

3 港区在宅療養相談窓口の運用

区では、区民や医療事業者等からの在宅医療・療養に関する相談への対応とともに、医療・介護事業者間の連携強化を図ることを目的に、平成29年9月に西部在宅療養相談窓口を、平成30年9月に東部在宅療養相談窓口を開設しました。相談窓口では、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会の協力のもと、区内5地区にそれぞれに配置されているリーダー及び副リーダーと連携して相談に対応しています。港区医師会では、地区リーダーのほか、皮膚科、整形外科、小児科、耳鼻咽喉科及び精神科の専門科リーダー医師を配置していただき、より連携を図りながら相談対応の充実に努めています。また、令和3年度からは、眼科の専門科リーダー医師を配置していただいております。

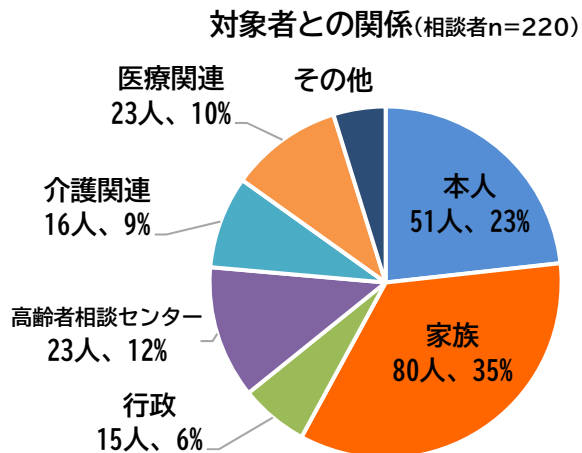
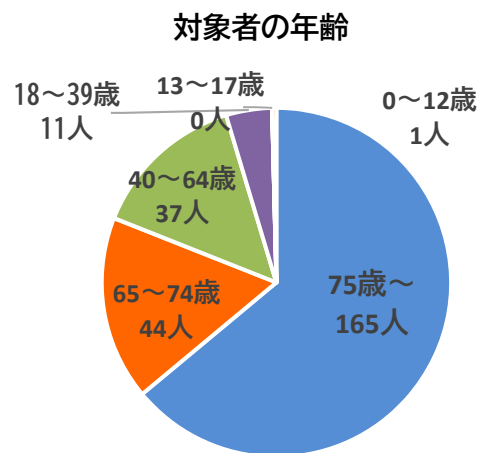
港区在宅療養相談窓口の実績（令和3年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
対象者数	23	22	36	18	23	21	23	24	17	15	19	17	258

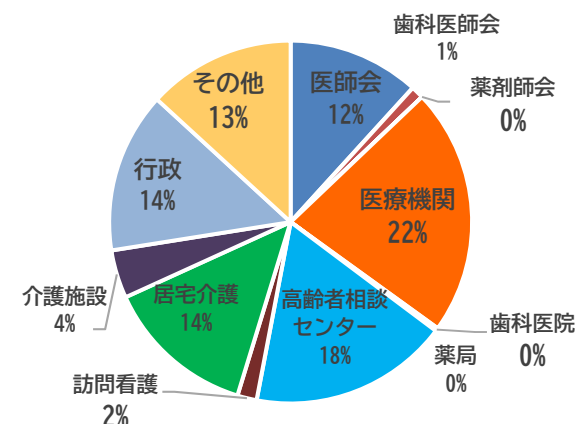
1カ月あたりの対象者数	令和3年度 約 22 人	令和2年度 約 19 人	令和元年度 約 28 人
-------------	--------------	--------------	--------------

※1人の対象者に対し、複数の相談者に対応する場合がありますため、対象者と相談者は同数ではありません。

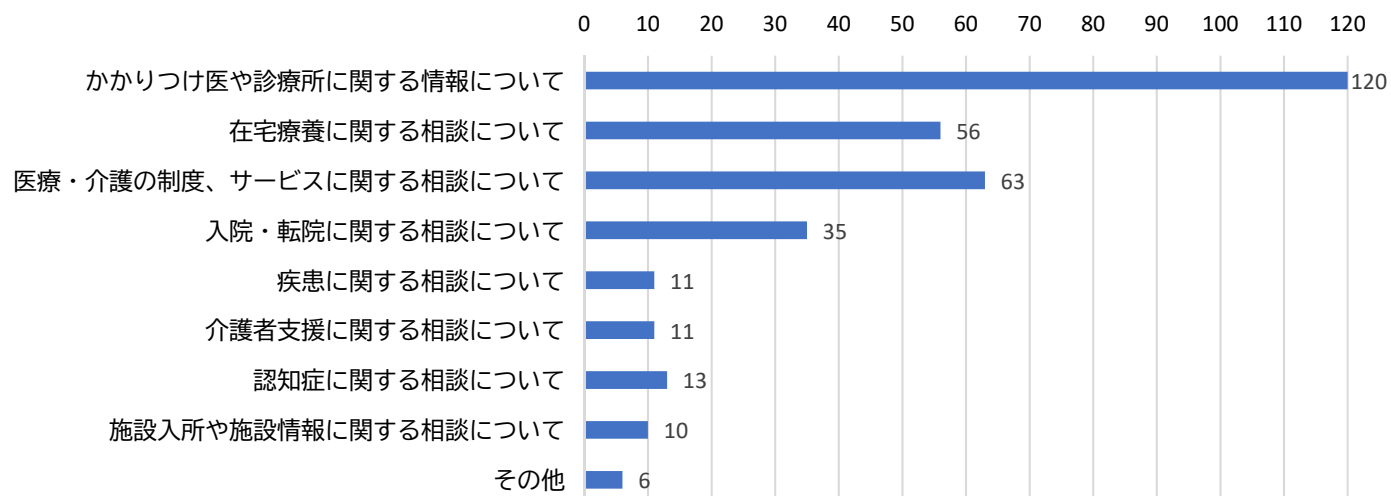
(1) 対象者・相談者



(2) 連携先



(3) 相談内容（対象者数258人 複数計上あり）



(4) 広報活動

平成31年度終盤から、新型コロナウイルス感染症の影響で、「みんなとオレンジカフェ」や高齢者相談センター等のイベントに参加ができず、区民等への広報活動ができない状況が続いていました。しかし、「みんなとオレンジカフェ」などの事業の再開や他の施設を訪問するなど、在宅療養相談窓口の広報活動も再開しています。

また、令和3年度から、がん在宅緩和ケア支援センター（ういケアみなと）と定期的に相談対応状況等の共有を進めているほか、区内の福祉関係機関等との情報共有等を進めています。

今後、幅広い相談対応ができるよう感染対策には十分に気を付けつつ、関係機関との連携を進めていきます。

訪問先：精神障害者地域活動支援センター「あいはーと・みなと」
がん在宅緩和ケア支援センター「ういケアみなと」
その他 区内医療機関等

(5) 区内12病院へのメルマガ発信

区内12病院の退院調整担当者等へ、区のイベント案内や区政情報等を発信し、医療機関との連携を強化しています。

4 在宅療養後方支援病床の運用実績

区内2病院（東京高輪病院、古川橋病院）と協定を締結し（平成29年3月22日）、一時的な入院が必要な区民が、速やかに入院することができる病床を確保することを目的とし、運用しています。

(1) 入院目的

	レスパイト	介護者の急病・介護困難	対象者の加療	合計
件数	15	18	69	102

年間件数	令和2年度	令和元年度
	139件	186件

(2) 在宅後方支援病床連絡会

回数	開催日	議題
第1回	令和3年10月19日（火） 会場：東京高輪病院	1 在宅療養後方支援病床の利用について 2 在宅療養後方支援病床利用者の状況について 3 （仮称）多職種連携ガイドブックについて 4 その他
第2回	令和4年3月下旬 会場：古川橋病院	新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため延期

(3) 周知状況 (例)



デジタルサイネージ

総合支所をはじめ区内50箇所の施設に設置し、広報番組や各部署からのお知らせ等を発信

各種パンフレット

在宅療養相談窓口や在宅療養ガイドブックに掲載



5 様々な機関との連携

(1) 港区地域ケア会議

港区の地域包括ケアの推進のため、多機関・多職種連携を推進し、地域課題や個別課題への対応について、参加者と一緒に考える会議として開催しました。

日時 会場、参加者数	日 時：令和3年10月20日（水）15時～16時30分 会 場：芝浦区民協働スペース 参加者：26人（高齢者相談センター相談員、障害者施設相談員、支所保健福祉係職員、保健師、ケアマネジャー、看護師等）
テーマ	地域包括ケアの推進のためのチーム支援について ～成年後見制度のチームの取組事例から～ 第1部 港区の地域包括ケア推進の取組紹介 第2部 講演「成年後見制度におけるチーム支援について」 第3部 パネルディスカッション「事例から考える港区のチームの取組」
講師	司法書士 國賀 綾
シンポジウム	パネリスト 司法書士 國賀 綾 港区社会福祉協議会成年後見推進係長 木村 礼子
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・課題があるときこそチーム会議が有効的であるため、それぞれの立場から課題共有する必要がある ・チーム支援のメンバー同士の関係性を深める必要がある ・スケジュール感や着地点を明確にする必要がある ・チーム会議において、役割分担や課題の理解を全体で進める必要がある
まとめ	チーム支援を進めるためには、「 <u>情報共有</u> 」、「 <u>役割分担</u> 」を明確に、それぞれが「 <u>責任</u> 」をもって、活動していくことが重要であることを確認した。 また、チームの会議の開催にあたっては、運営の工夫や事前の情報提供の方法など、チーム構成員間の情報共有する方法などの課題も多くあり、検証しながら進めていくことを確認した。



地域ケア会議の様子



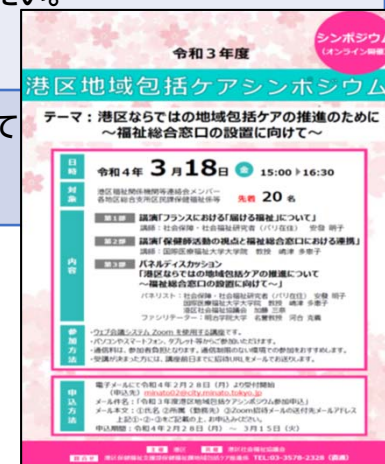
地域ケア会議のチラシ

5 様々な機関との連携

(2) 港区地域包括ケアシンポジウム

港区の地域包括ケアの推進と福祉総合窓口の設置に向け、関係する施設職員や相談員等を対象に、学識経験者等によるシンポジウムを開催しました。

日時 会場、参加者数	日 時：令和4年3月18日（金）15時～16時30分（オンライン開催） 参加者：28人（高齢者相談センター相談員、障害者施設相談員、在宅療養相談窓口相談員、保健師、その他区職員など）
テーマ	港区ならではの地域包括ケアの推進のために ～福祉総合窓口の設置に向けて～ 第1部 講演「フランスにおける「届ける福祉」について」 講師：社会保障・社会福祉研究者（パリ在住） 安發 明子 第2部 講演「保健師活動の視点と福祉総合窓口における連携」 講師：国際医療福祉大学大学院 教授 嶋津 多恵子 第3部 パネルディスカッション「港区ならではの地域包括ケアの推進について～福祉総合窓口の設置に向けて～」 パネリスト：社会保障・社会福祉研究者（パリ在住）安發 明子 国際医療福祉大学大学院 教授 嶋津 多恵子 港区社会福祉協議会 加藤 三奈 ファシリテーター：明治学院大学 名誉教授 河合 克義
意見	<ul style="list-style-type: none"> ・8月から始まる福祉総合窓口について、窓口の役割と連携について学ぶことができた。 ・フランスの「届ける福祉」という対応を知ることができ、今後の相談対応に活かしていきたい。 ・他国の福祉の現状を知り、とても興味深かった。福祉総合窓口で具体的な相談対応等学ぶ機会があるとよい。
まとめ	フランスの「届ける福祉」について、「つなげる」だけではなく、「つなげた後」にどうしていくのか等を考え対応している。支援方針や対応においては、スケジュールを検討し、共有することが大切である。



シンポジウムの様子



港区地域包括ケアシンポジウムのチラシ

(3) 港区福祉関係機関等連絡会

令和4年8月に総合支所に設置する福祉総合窓口の設置準備の一環として、福祉に関する各分野の相談を実施している関係者間の連携を深め、日常的に情報共有が図れる関係づくりを目的に、令和2年度から港区福祉関係機関等連絡会を開催しています。

令和3年度 第1回 令和3年8月4日（水） 港区役所9階会議室

分 野	参加機関等
高 齢 者	各地区高齢者相談センター
障 害 者	障害保健福祉センター、精神障害者地域活動支援センター 児童発達支援センター、障害者支援ホーム南麻布 新橋はつらつ太陽
生活困窮	生活・就労支援センター
子 ども	子ども家庭支援センター
在宅医療	在宅療養相談窓口
地域福祉	港区社会福祉協議会

各機関から自己紹介とともに、複合的な福祉課題について、ご報告いただきました。

具体的には、子どもがひきこもりで発達に課題があり、保護者が精神障害を持つケースや、タワーマンション入居者に関するケース、障害から介護保険への切替のケース等についての事例がありました。

地域課題は複雑で、制度を使っている人の情報共有がされていないことがあり、仕組みや制度、業務の理解も含めて関係性を深めることが必要だという意見がありました。



(4) 港区地域包括ケア研修会

	第1回	第2回	第3回
日時	令和3年6月25日(金) 19時15分～20時30分 (オンライン開催)	令和3年10月15日(金) 19時15分～20時30分 (オンライン開催)	令和4年3月11日(金) 19時15分～20時30分 (オンライン開催)
参加数	151人	109人	84人
担当病院	東京慈恵会医科大学附属病院	北里大学北里研究所病院	JCHO東京高輪病院
テーマ	在宅・施設における感染対策 ～マスク越しでも最高の笑顔をお届けのために～	高齢者のポリファーマシーを考える	地域で考える口腔ケア
講師	演題1「病院とは一味違う感染対策 ～ポストコロナ時代はどうか～」 港区医師会 理事 菰池 信彦 演題2「在宅・施設における感染対策」 東京慈恵会医科大学附属病院 感染対策部 副部長 美島 路恵	演題1「ポリファーマシーと多疾患併存」 北里大学北里研究所病院 医師 三崎 美佳 演題2「ポリファーマシーと当院の現状」 北里大学北里研究所病院 薬剤師 小林 彦登 演題3「薬局・薬剤師の立場から」 港区薬剤師会 副会長 北村 兼一	演題1「看護師が看る口腔 ～病院内・地域での活動～」 JCHO東京高輪病院 看護師 矢場 千明 演題2「在宅における口腔ケア2022年の課題」 JCHO東京高輪病院 歯科口腔外科 歯科医師 大橋 勝
共催	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、東京慈恵会医科大学附属病院	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、北里大学北里研究所病院	港区、港区医師会、港区芝歯科医師会、港区麻布赤坂歯科医師会、港区薬剤師会、JCHO東京高輪病院



第1回 地域包括ケア研修会の様子



第2回 地域包括ケア研修会の様子



第3回 地域包括ケア研修会の様子 10

支援者のための関係機関連携ガイドブックの作成に向けて

令和4年8月の福祉総合窓口の設置にあたり、区では、港区ならではの地域包括ケアを推進し、保健福祉の関係機関等の連携強化を図るため、支援する職員向けに作成しています。

(1) ガイドブック作成の目的

「福祉総合窓口」では、ワンストップで個々の悩みや課題に寄り添い、支援につなげ世帯単位で課題を解決することを目的としています。8050 問題やダブルケアなどの複合的な課題解決に向けては、より一層の多機関・多職種連携を円滑に図ることが必要だと考え、より良い関係性の構築のためガイドブックを作成することとしました。



(2) 検討状況

令和3年9月	第1回 在宅医療・介護連携推進部会 基本的な方針と活用方法、作成方法について検討
11月	関係機関にアンケート実施 アンケート調査対象窓口 高齢者相談センター、ふれあい相談員、居宅介護事業所(代表5か所)、 障害者総合相談支援センター、障害保健福祉センター、 子ども家庭支援センター 等
12月	アンケート回収
令和4年2月	第2回在宅医療・介護連携推進部会 回収したアンケートをもとに内容について検討
8月	発行予定

コミュニティソーシャルワーカーの活動

(1) コミュニティソーシャルワーカー(CSW)とは

介護、育児、障害、ひきこもりなど、複数の課題を抱えてどこに相談したらいいかわからずに困っている場合や、地域に心配している人がいる場合などに、港区社会福祉協議会職員がコミュニティソーシャルワーカー（CSW）として、一緒に解決方法を考えます。対象者本人の年齢制限はなく、子育て世代、高齢者、障害者を問わず受け付けています。

また、地域住民や関係機関等と連携して、解決に向けた支援や新しい仕組みづくり、地域でのネットワーク構築に向けた取組を進めます。

(2) 相談支援対応数

(単位：件)

区分	年度	2	3
新規		86	138
継続（延べ）		231	599
終了		57	76



コミュニティ
ソーシャルワーカーのチラシ

(3) 主な講演会等啓発活動

実施月	内容
11月	講演会「ひきこもりを知る」 令和3年11月13日（土）14時～16時30分 芝浦区民協働スペースまたはオンライン 内容：ひきこもりの概要、社会資源（関係機関・相談機関）について他
12月	地域つながりづくり講座「はじめたい あなたに伝える10のこと」 令和3年12月12日（日）13時30分～15時30分 麻布区民協働スペースまたはオンライン 内容：サロン活動や見守り活動など、地域の居場所づくりの活動者を増やすためイメージをつかんでいただくための講座



講演会等のチラシ

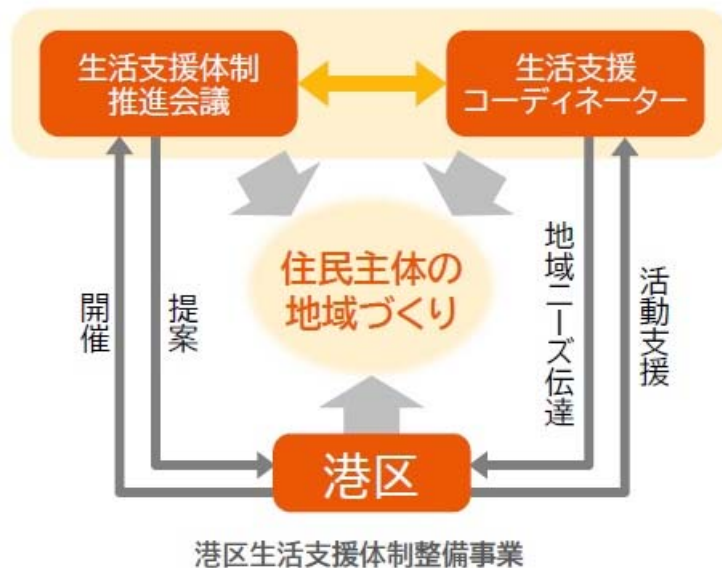
6 生活支援体制整備事業

地域で高齢者の在宅生活を支えるために、介護保険制度でのサービスのみならず、公的な福祉サービスや民間企業のサービス、さらに、地域の支え合いで行われるサービスなど、さまざまな実施主体の連携や情報共有と介護保険外のサービスの活用が重要となります。

港区では「生活支援体制推進会議」の設置や「生活支援コーディネーター」の配置等により、生活支援の体制を整備する事業を実施しています。

(1)生活支援コーディネーターとは

地域の支え合い活動を広める推進役です。地域のみなさんや関係機関と一緒に、高齢者の支え合い活動を広げることやサービスの開発に向けて検討し、取り組んでいます。



(2)コロナ禍での取組

新型コロナウイルス感染症の影響により、地域のみなさんが行ってきた活動が制限せざるを得ない状況になっています。しかし、感染対策をしながら、内容や方法を工夫して活動を継続したり、新たな取り組みを始めたりするために、一緒に考えサポートしています。

「地域活動における新型コロナウイルス感染症予防ガイドライン」の作成

「新しい地域活動への挑戦」と題したオンラインワークショップの開催

⇒新しい生活様式を踏まえた取組について、みんなでアイデアを出し合えました

コロナ禍で注目の集まったオンラインツールの使い方講座や使い方を教える人を養成する講座の開催

⇒オンラインツールを利用した地域のつながりが増えています

「コロナ禍の地域活動事例ヒントブック 今、地域でできること」の発行

⇒コロナ禍でもできるつながりづくりのアイデアを紹介しました



オンラインツール講座のチラシ・写真



地域活動における新型コロナウイルス感染症
予防ガイドライン（第2版）



コロナ禍の地域活動事例ヒントブック 14

7 認知症施策

(1) 認知症初期集中支援事業

認知症の人及びその家族に対する初期支援を包括的かつ集中的に行うため、認知症初期集中支援チームを設置し、認知症の早期診断および早期対応に向けた支援を行うことにより、可能な限り住み慣れた地域で生活を続けることができるよう支援しています。

認知症初期集中支援チーム

東京都済生会中央病院に配置。
認知症の人やその家族をチーム員が訪問し、継続的なサービス等、今後につなげていくための初期支援を行う。

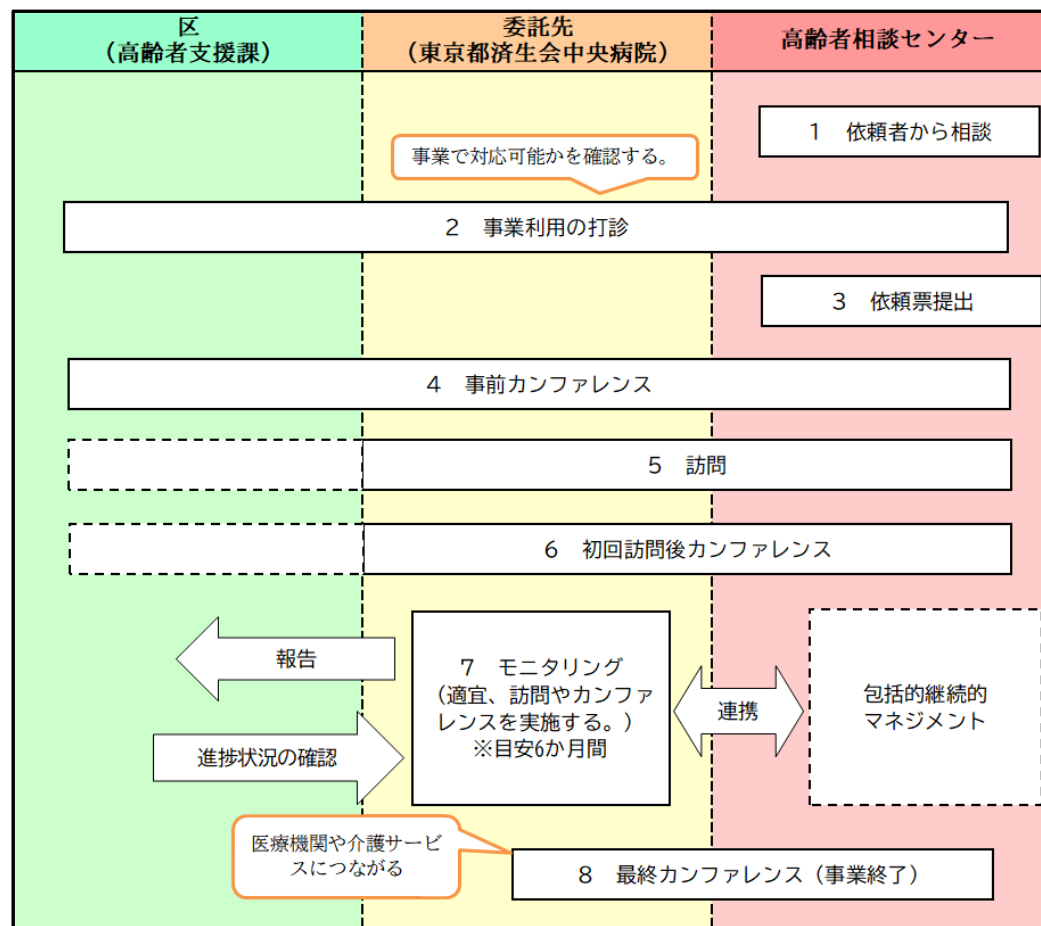
認知症初期集中支援チームを構成する職種

医師、保健師、看護師、作業療法士、
歯科衛生士、精神保健福祉士、社会福祉士、
介護福祉士等



認知症初期集中支援チームパンフレット

【支援フロー図】



【実績報告】（令和3年12月末現在）

年度	29	30	元	2	3
支援者数（人）	8	14	12	4	4
訪問支援延件数（件）	14	22	13	4	5
相談延件数（件）	85	154	146	27	38

<ケース事例> 区内90歳代、女性、二世帯住宅、家族からの相談、介護サービス未申請

- ・一年前から、息子にお金を引き出された、通帳・印鑑・保険証がない等被害妄想の訴えがあった。
- ・家族は、認知症の診断名がつくことを希望しているため、訪問診療が望ましい。
- ・本人を訪問し検診を勧めるが、受診拒否が強く医療機関に繋がらない。すぐに介入できる状況ではないと判断し、支援を継続中。

(2) みなと認知症サポート店認定制度

認知症の人が安心して利用できる環境整備や支援に取り組む店舗や事業所等を「みなと認知症サポート店」として認定します。令和3年度末で29店舗を認定しています。

みなと認知症サポート店とは…

認知症に関する知識を生かし、接客時の気遣い・気配り等の適切な対応や見守り、認知症への理解を促す取組を行う店舗や事業所等です。認知症の人でも安心して利用できます。

【認定までの流れ】

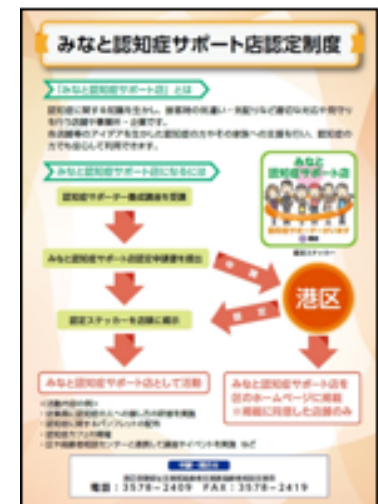
- ①店舗や事業所の従業員が「認知症サポーター養成講座」を受講します。
- ②各店舗のアイデアを生かした認知症の人やその家族への支援、見守り等の取り組み内容を明記した申請書を区に提出して認定を受けます。

【取組内容の例】

- ・社内で認知症に関する研修の実施
- ・認知症に関するパンフレットの配布
- ・認知症カフェの開催
- ・区や高齢者相談センターと連携して講座やイベントを実施
- ・その他各店舗等のアイデアを活かした認知症の方やその家族への支援、見守り など



認定ステッカー

みなと認知症サポート店
認定制度チラシ

8 介護予防事業

介護予防事業は、高齢者の皆さんが要介護状態となることを予防するとともに、地域において自立した日常生活が送れるように支援する事業です。事業には、生活機能の低下がみられる人を対象としたみんなと元気塾と、一般の高齢者を対象としたみんなの教室、みんなでトレーニングがあります。

(1) 自宅でできる介護予防

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響により、高齢者の運動不足による筋力低下などを予防するため、ケーブルテレビ、ホームページ、区の公式YouTubeチャンネル、DVD、チラシ等を活用し、自宅でできる介護予防運動を紹介しました。

ラクっチャ専門職 「ミニ講座」(動画)	ラクっチャの専門職(理学療法士、管理栄養士、看護師、作業療法士)が介護予防の講話を動画にまとめています。
Let's!ラクっチャ(動画)	ラクっチャの専門職が介護予防の講話を15分程度の動画にまとめてご紹介しています。
寺子屋ラクっチャ(チラシ)	知って・聞いて・楽しく介護予防の知識と実践方法がチラシを見ながら学べます。自宅で出来る簡単な以下の介護予防運動を紹介します。 転倒、膝痛、腰痛、肩こり、尿失禁、低栄養・口腔機能、認知症、閉じこもり、高齢者のコミュニケーション、心のケア



専門職ミニ講座「健康はいい姿勢から」



YouTube認知症予防編



寺子屋ラクっチャチラシ

(2) 自主活動グループ

介護予防活動を主体的・積極的に担うボランティアを介護予防リーダーと呼びます。その介護予防リーダーが中心となり、地域において自主的に、体操やウォーキング、脳トレなどの活動を定期的に行うグループを自主活動グループといいます。高齢者が自ら進んで地域の活動に継続的に参加することで、自分らしい生活の維持や生きがいにつながり介護予防効果につなげることを目的としています。

自主活動グループの活動例

コミュニティー活性化活動/防災ミニ実習/防災の情報交換/かんたん体操/介護予防体操/ウォーキング/調理技能取得・向上/歌/カフェ/園芸/頭脳のトレーニング

自主活動グループ団体数

年度	27	28	29	30	元	2	3
団体数	11	11	19	25	27	26	31



らくっチャ通信の活動報告ページ



自主活動グループ紹介チラシ

9 資料

(1) 地域包括ケア推進会議委員名簿

令和3年度開催時点
(敬称略)

氏名	職名等
河合 克義 ◎	明治学院大学 名誉教授
藤田 耕一郎 ○	一般社団法人東京都港区医師会 会長
長井 博昭	公益社団法人東京都港区芝歯科医師会 会長
綱島 俊幸	公益社団法人東京都港区麻布赤坂歯科医師会 会長
龍岡 健一	一般社団法人東京都港区薬剤師会 会長
竜崎 崇和	東京都済生会中央病院 副院長
嶋津 多恵子	国際医療福祉大学大学院 教授
黒目 修	港区介護事業者連絡協議会 会長
奥野 佳宏	港区社会福祉協議会 事務局長
野尻 三重子	港区民生・児童委員協議会 会長
出野 泰正	赤坂青山町会連合会 会長
有賀 謙二	保健福祉支援部長
松本 加代	みなと保健所長

◎ 会長 ○ 副会長

(2) 港区地域包括ケア推進会議 在宅医療・介護連携推進部会員名簿

令和3年度開催時点（敬称略）

氏名	職名等
安田 淳 ◎	一般社団法人東京都港区医師会 常務理事
緑川 道子	一般社団法人東京都港区医師会 担当理事
岡崎 正史	公益社団法人東京都港区芝歯科医師会 副会長
齋田 菜緒子	公益社団法人東京都港区麻布赤坂歯科医師会 担当理事
青木 美子	一般社団法人東京都港区薬剤師会 副会長
石田 茂正	独立行政法人地域医療機能推進機構 東京高輪病院 医療連携・患者支援センター 課長補佐
岩淵 美和子	医療法人財団厚生会 古川橋病院 看護部長
享保 奈々	港区介護事業者連絡協議会 居宅介護支援部会長
南塚 恵	がん在宅緩和ケア支援センター 副施設長
築田 晴	高輪地区高齢者相談センター (地域包括支援センター白金の森) 管理者
西田 京子	港区社会福祉協議会 事務局次長

◎ 部会長

(3) 港区地域包括ケア推進会議 地域リハビリテーション・介護予防推進部会員

令和3年度開催時点（敬称略）

氏名	職名等
安保 雅博 ◎	東京慈恵会医科大学附属病院 副院長
腰塚 裕	一般社団法人東京都港区医師会 理事
中林 秀夫 ○	一般社団法人東京都港区医師会 理事
白土 貴史	独立行政法人地域医療機能推進機構 東京高輪病院 整形外科部長
佐藤 志穂子 ○	麻布地区高齢者相談センター 社会福祉士 (南麻布地域包括支援センター)
畠山 拓子	ガイア訪問看護ステーション港 管理者
尾芝 徳一	介護予防総合センター センター長
山田 千恵	居宅介護支援事務所 こめつつじ 介護支援専門員

◎ 会長 ○ 副会長

(4) 港区在宅医療・療養・介護連携調整会議（東部・西部）委員名簿

令和3年度開催時点
(敬称略)

港区在宅医療・療養・介護連携調整会議（東部）

氏名	職名等
安田 淳	一般社団法人東京都港区医師会 常務理事
岡崎 正史	公益社団法人東京都港区芝歯科医師会 副会長
青木 美子	一般社団法人東京都港区薬剤師会 副会長
黒川 文希	独立行政法人地域医療機能推進機構 東京高輪病院 医療連携・患者支援センター 看護師長
小林 之維	港区介護事業者連絡協議会 担当者
藤田 純子	港区民生・児童委員協議会 地区代表
加藤 三奈	港区社会福祉協議会 生活支援コーディネーター
林 めぐみ	芝地区高齢者相談センター (芝地域包括支援センター)
岩城 澄恵	高輪地区高齢者相談センター (地域包括支援センター白金の森)
新山 莉沙	芝浦港南地区高齢者相談センター (地域包括支援センター港南の郷)
遠藤 博之	芝浦港南地区総合支所 区民課 保健福祉係長
井出 昌子	みなと保健所 健康推進課 保健指導調整担当係長

港区在宅医療・療養・介護連携調整会議（西部）

氏名	職名等
稲村 俊明	一般社団法人東京都港区医師会
齋田 菜緒子	公益社団法人東京都港区麻布赤坂歯科医師会 担当理事
北村 兼一	一般社団法人東京都港区薬剤師会 副会長
長谷川 剛	医療法人財団厚生会 古川橋病院
小宮山 由香	港区介護事業者連絡協議会 担当者
柁川 とし子	港区民生・児童委員協議会 地区代表
武士 愛里	港区社会福祉協議会 生活支援コーディネーター
丸山 菜月	麻布地区高齢者相談センター (南麻布地域包括支援センター)
小林 由佳	赤坂地区高齢者相談センター (北青山地域包括支援センター)
塚本 勝徳	麻布地区総合支所 区民課 保健福祉係長
石井 友子	みなと保健所 健康推進課 保健指導調整担当係長